

本文献紹介に示された見解は、航空自衛隊幹部学校航空研究センターにおける研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省または航空自衛隊の見解を表すものではありません。

2021年6月21日

文献紹介 018

Alastair Iain Johnston, Tsai Chia-Hung, George Yin, and Steven Goldstein

The Ambiguity of Strategic Clarity

(仮訳：米国の対台湾政策が内包する抑止効果の不確実性)

War on the Rocks, June 9, 2021.

防衛戦略研究室 坂田 靖弘

本文献紹介は、ハーバード大学のアラステア・イアン・ジョンストン (Alastair Iain Johnston) 教授らによる、米国の対台湾政策である「戦略的曖昧さ (strategic ambiguity)」に関する論考を紹介するものである。

米国による台湾に対する「戦略的曖昧さ」とは、中国が台湾を攻撃した際に、米国がどのような軍事的・外交的支援を行うのかについて、その範囲や規模を意図的に明確にしない (あえて不明確にする) 政策である。これにより、中国の指導者に対して、中国が台湾を攻撃した際の米国の対応に不確実性を持たせ、米国の対応に最悪のケースを想定させて紛争の抑止につなげる。また、台湾が米国の支援の範囲と規模に確信を持てなければ、台湾の独立への動きを抑止することにもつながる。ジョンストンらも紹介しているとおり、これはリチャード・ブッシュが論じた「二重の抑止 (dual deterrence)」の状態である¹。

このような「戦略的曖昧さ」に対して、最近の米国では、むしろ「戦略的明確さ (strategic clarity)」政策を採用すべきとの考えがシンクタンク等を中心に論じられている²。ジョンストンらも指摘しているとおり、「戦略的明確さ」を

¹ Richard Bush, "The US Policy of Dual Deterrence," Steve Tsang, ed., *If China Attacks Taiwan: Military Strategy, Politics and Economics*, Routledge, November 2005, pp. 30-45.

² 米国のシンクタンクにおける議論状況については、例えば、坂田靖弘「文献紹介 001 より 強固な米台関係に向けて」、航空研究センターHP、2020年11月30日、を参照。

支持する側は、「戦略的曖昧さ」では、中国に対して抑止に関する十分なメッセージを送れておらず、台湾にも十分な安心感を与えられていないことから、結果として紛争の蓋然性が高まり、地域の同盟国による米国への信頼感も低下し、米国による民主的政府への支援も損なわせると主張している。

ジョンストンらは、この「戦略的曖昧さ」と「戦略的明確さ」のどちらが米国による抑止を高めるかについて、そもそも「戦略的明確さ」が政策としては未採用であるため検証は不可能としつつも、ジョンストンらが台湾で実施した調査に基づき、①台湾市民による中国と戦う意思（戦意）、②台湾市民の独立支持の態度、という2点に対して「戦略的明確さ」が与える影響は検証可能であるとして、検証結果に基づく仮説を提示している。ジョンストンらも認めているとおり、「戦意」は抑止力の一要素に過ぎないが、台湾市民の戦意は、中国、台湾、そして米国のいずれのプレイヤーにとっても武力行使に伴うコスト計算等において重要な意味を持つ。

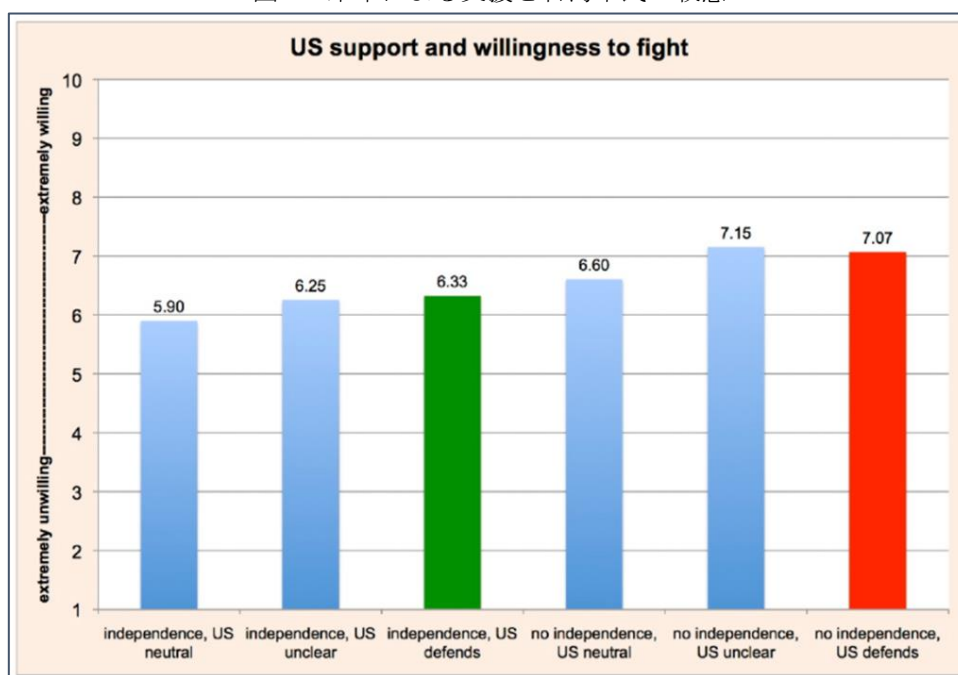
ジョンストンらの調査は、2019年11月と2020年11月の2回、台湾において無作為抽出の市民に対して行われた。2019年11月の調査では、まず、中国が台湾を攻撃したとのシナリオが回答者に提示され、その後回答者に対して、①台湾が独立を宣言済みで米国は中立、②台湾が独立を宣言済みで米国は来援を躊躇、③台湾が独立を宣言済みで米軍が来援、④台湾は独立を宣言せず米国は中立、⑤台湾が独立を宣言せず米国は来援を躊躇、⑥台湾は独立を宣言せず米軍は来援、という6つの仮定条件のうち1つがランダムに提示され、回答者は提示された仮定条件下における自身の戦意について、大いに積極的（*extremely willing*）から大いに消極的（*extremely unwilling*）までの10段階の度合いから選択して回答した。2020年11月の調査も2019年11月の調査と同様に、中国が台湾を軍事的に脅かした際の米軍による来援可能性への信頼度を図るよう設問されるとともに、台湾防衛への米国の態度を知った後の台湾独立への支持の程度に関する質問が行われた³。

2回の調査を通じて、ジョンストンらは2つの点を明らかにした。まず、米国の軍事支援が確実な状況では、台湾市民の戦意が高まるということである。図1が示すとおり、米国の対応が中立から躊躇を経て来援に進むにつれて全体的に台湾市民の戦意が高まる傾向にあり、また、台湾が独立を宣言している場合は、

³ 台湾市民に対する調査について、対象、方法及び細部の設問等については本稿内では明らかにされていない。

宣言していない場合に比べて戦意が低くなる傾向にあるということを指摘している。つまり、この結果からは、台湾の独立宣言がない限り、米国による「戦略的明確さ」がある方が台湾市民の戦意の高まりによる抑止効果が期待できると主張している。

図1 米軍による支援と台湾市民の戦意

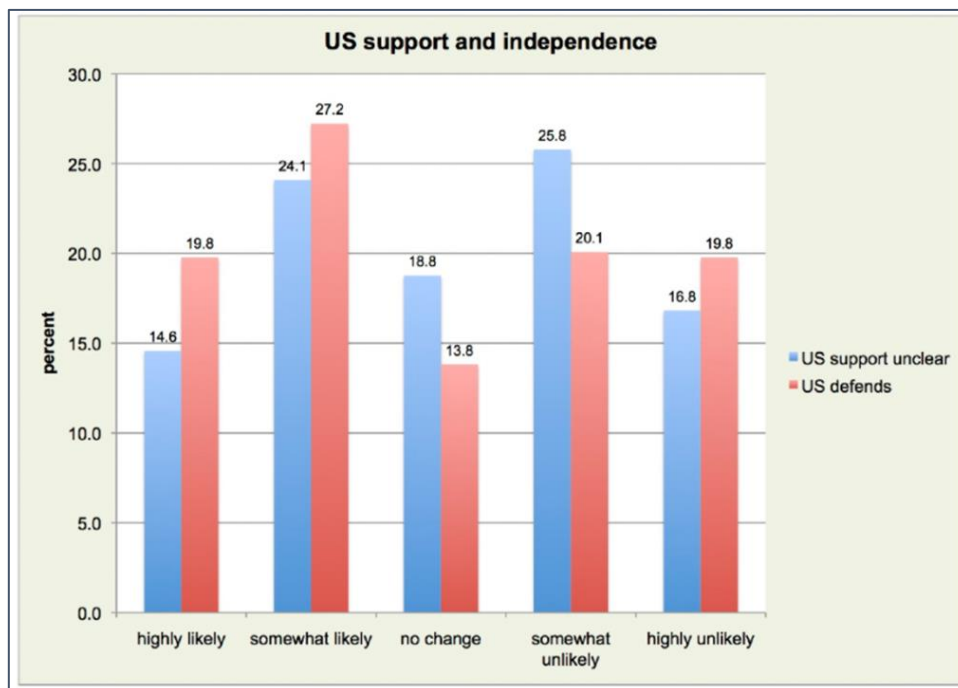


2点目に、米国が台湾を支援するという台湾市民の確信は、台湾独立への支持を高めるということをジョンストンらは指摘する。図2が示すとおり、「中国が武力を行使した際に台湾の独立を支持する可能性が非常に高い」と答えた台湾市民は、米軍による支援が不透明なものから確実なものに移行するにつれて約15%から約20%に増加しており、同様に、「どちらかと言えば支持する可能性が高い」と答えた市民も約24%から約27%へと増加している。つまり、米国の「戦略的明確さ」が、台湾市民による台湾独立への支持を高めたということであり、このようなコミットメントは、「米国が台湾独立を支持していない」という中国に対する保証（assurance）を損なわせることになり、「戦略的明確さ」政策では抑止力を弱めてしまう可能性があるという指摘をする。

以上のことから、ジョンストンらは、「戦略的明確さ」政策による全体的な抑止効果は曖昧であると主張している。すなわち、「戦略的明確さ」は、台湾市民の戦意を高揚させて抑止力を高める可能性がある一方で、台湾市民による台湾独立への支持を高めることから抑止力を低下させる可能性もあるということである。

ある。ジョンストンらは米国の政策に対して特定の立場を表明していないが、少なくとも「戦略的明確さ」政策は、米国の意思に疑いをはさむ余地がなく、曖昧さを排した信憑性のある条件下でのみ成立するというを明らかにしている。

図 2 米軍による支援と台湾独立



(図 1 及び図 2 の出典: Alastair Iain Johnston, Tsai Chia-Hung, George Yin, and Steven Goldstein, “The Ambiguity of Strategic Clarity,” *War on the Rocks*, June 9, 2021.)
 ※筆者注: 図 2 の縦軸は、台湾独立支援に係る 5 つの態度それぞれの割合を示している。

米国で議論されている「戦略的曖昧さ」と「戦略的明確さ」について、それぞれの主張はいずれも確からしさを持っている。抑止をめぐる議論でしばしば指摘されるように、抑止の効果を判定することは困難であり、いくらかの推論の幅の中で妥当性を検討するほかになく、ジョンストンらによる台湾市民への調査結果に基づく今回の論考は、その適否を考察する上で一定の示唆を与えている。一方で、今回の論考では、ジョンストンらの調査に関する手法や結果に関する説明や科学的評価は付されておらず、今後の同氏らによる研究成果等の発表に注目していきたい。

また、ジョンストンらも述べているように、今回の論考では、中国が「台湾の強制的な統一」よりも「独立の抑止」を望んでいるとの仮定に基づいているが、相手の真の狙いとは何か、一方の政策が相手にどのような影響を与えるのか、戦略の相互作用がどのように進展するのか、といった点については慎重に検討する必要がある。今回の論考に関連して、米国の「戦略的曖昧さ」政策による中国と

台湾双方に対する不確実性の創出は、今後の我が国の防衛戦略を考える上でも大いに参考となる。そのためには、地域の専門家や高度な戦略理論を解する専門家を育成するとともに、それら専門家による知的産物を各種政策に適切に反映していく必要がある。